

島根県に多い膵臓癌の撲滅をめざして

Reducing pancreatic cancer mortality in Shimane Prefecture

島根県に多い膵臓癌の撲滅をめざして

Reducing pancreatic cancer mortality in Shimane Prefecture

グループ紹介

研究代表者：田邊 剛 (医学部・准教授)
共同研究者：藤田 委由 (医学部・教授), 山口 奈津 (医学部・研究員)
天野 宏紀 (医学部・助教), 三浦 美樹子 (医学部・助教)

Leader : Tsuyoshi Tanabe (Associate Professor, Faculty of Medicine)
Yasuyuki Fujita (Professor, Faculty of Medicine)
Natsu Yamaguchi (Researcher, Faculty of Medicine)
Hiroki Amano (Assistant Professor, Faculty of Medicine)
Mikiko Miura (Assistant Professor, Faculty of Medicine)

概要

島根県に多い膵臓癌の危険因子を明らかにし、早期発見および予防により死亡率の低下に結びつけることを目的としています。

The pancreatic cancer mortality in Shimane Prefecture is significantly high. The aim of this study is to reduce the pancreatic cancer mortality by developing the strategies for prevention and early detection.

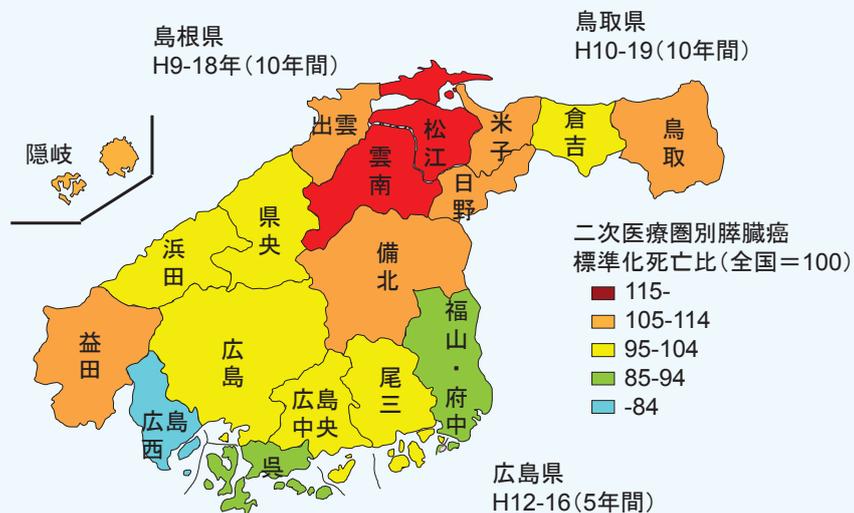
特色研究 成果今後の展望

膵臓癌は日本で近年急増し、臓器別癌死亡率では5番目です。また予後不良で、5年生存率は約10%です。島根県では膵臓癌が1980年以降増加し、男性では全国でも膵臓癌死亡率の最も高いグループにあります。女性の膵臓癌死亡率も高く、1997-1999年の3年間は全国一位を続けていました。

本研究では、これまで疫学的調査を進め、男女ともに膵臓癌の標準化死亡比(SMR)が全国に比ベ有意に高いこと、特に松江と雲南を中心とした集積地域(図)を認めること、膵臓癌と乳癌のSMRが地理的に正相関していることを明らかにしました。

現在、膵臓癌集積地域での危険因子を明らかにするために、県東部のがん拠点病院を中心に症例対照研究を進めています。今後、明らかにした危険因子の情報を基にハイリスクグループの同定および予防策の確立を行い、自治体とも協力して予防活動を実践し、島根県の膵臓癌の死亡率低下を目指します。

また新しい早期発見法の開発を目指して、味の素株式会社と共同で、血中アミノ酸の解析による早期癌の診断(アミノインデックス)を検討しています。血中アミノ酸の相対比が癌腫毎に異なるパターンを示すことを応用して、血液5mlから早期癌を診断する方法で、新しい腫瘍マーカーとしての確立を目標として、一万人規模のコホート研究を進めています。



島根県・広島県・鳥取県での膵臓癌死亡比の分布